

令和5年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 陸前高田市国際交流協会 (都道府県： 岩手県)

1. 当該地域の情報 (令和6年2月現在)

地域の課題	現在当市には全人口の約1%である170名程度の外国人が居住している。そのうちの約6割を技能実習生・特定技能といった労働者が占めているが、これらの「ニューカマー」は人間関係がそれぞれの企業内に留まり、当協会を含め市民との交流が殆どない。また行政が作る防災や生活関連の各種資料が一般の日本語のみであり、外国人への配慮が十分に行われているとは言えない状況がある。 地域の主要産業は農業・漁業、また食品加工業等の第1次・第2次産業であり人材確保は深刻な課題であり、外国人労働者に対する潜在的な需要は高いものの、社会全体としてまだその課題が十分に認識されてはいない。
在住外国人数 外国人比率	【在住外国人数】167人(17,550人中) 【外国人比率】約1%(0.95%)
在住外国人の状況	【主な国籍と人数】カンボジア42人、ベトナム37人、フィリピン35人、中国22人、ミャンマー16人、米国5人、タイ3人、エクアドル・チリ・韓国・台湾・デンマーク各1人 【在留資格】技能実習89人(1号、2号各34人、3号21人)、永住者42人、特定技能16人(1号のみ)、日本人の配偶者9人、教育・宗教各2人、定住者1人 【滞在年数・在留期間などの状況】 永住者の大半は中国・フィリピン出身の「結婚移住女性」で25年以上居住している者も多い。一方、滞在年数の浅い技能実習・特定技能が在住外国人の6割(100人)以上を占める状況となっている。 *なお、上記の人数には、当市の企業で勤務しているが住所(寮)が市外にある者は含まれていない。実質的には当市にいる外国人労働者はより数が多いとみられる。
在住外国人の日本語教育の現状	・市国際交流協会(以下、「協会」)が外国から地域に嫁いできた女性たちを対象に1997年から日本語教室を開講。震災後も元学校教員を講師として概ね週1回ペースで教室を継続してきた。コロナ禍で教室は一時休止。オンライン化を一時試みるも講師・学習者とも不慣れなため早々に断念。その後対面教室を再開するも、参加者が極端に少ない状況が続いた。 2023年、協会が外国人向けの防災企画の実施の検討を開始したことを機に、市役所地域振興部職員が技能実習生を抱える企業の個別訪問を開始した。この中で日本語教室の存在を周知したこともあり、2月ごろから参加外国人が増加し始めた。年度明け5月に教室を再開したところ、外国人参加者が急増。「夏休み」に先立つ7月末まで安定して15~18人程度の外国人参加者を得ていた。 他方、「有償ボランティア」であった教室講師が2023年7月末をもって勇退。同9月、公募により集まった約10名のボランティア(「サポーター」)と共に新たなかたちで日本語教室を再スタートした。 ・国際交流協会が実施する上記「教室」以外、市としては日本語教育を含め特に外国人向け(子どもを含む)の施策は行っていない。(背景として、市在住の外国にルーツをもつ子どもは殆どが当市で生まれ育っており、日本語に不自由がない点が挙げられる) ・技能実習生等を抱えた企業の中には、社内で独自の日本語指導などを実施しているものもあるが、管理団体任せの企業が多いとみられる。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	1年目
事業の目的	在住外国人の多様なニーズを踏まえ、多くの外国人が集う日本語教室を立ち上げる。その日本語教室を地域の様々なコミュニティやリソースとつなげ、地域の外国人・日本人が出会う「多文化共生」の拠点の場になるよう発展させていく。 初年度は、ニーズ調査と教室の試行的運営を実施。並行して当市日本語教室関係者が他の先進事例などを学び、当市が目指す日本語教室像について検討する。

事業の概要	【初年度の活動】 ① 「旧来型」の教室の継続実施 [5月～7月] ② 並行して「新規」教室に向けた準備（「サポーター」募集、実施計画）[～8月] ③ 「サポーター」説明会[9月4日] ④ 教室活動の実施[9月11日～ 週末は10月～] 平日24回、週末5回実施（見込み） ⑤ 「サポーター」研修会[9月から3月まで毎月1回] ⑥ ニーズ調査～ 外国人住民、外国人材雇用事業所対象 ・アンケート調査について、個人からの回答は殆どなし 企業を通じて、一部の技能実習生等からは回答あり。 ・訪問調査は殆ど実施できず ⑦ 他地域日本語教室：県内外で先行して実施している日本語教室の見学・情報収集 ・気仙沼市、大船渡市の教室に一部関係者見学。 県国際交流協会主催県内日本語教室の情報交換会に参加 ・長尾アドバイザーのアレンジによる愛知県の日本語教室訪問（見学・意見交換）に4名参加。 ⑧ 外国人を主な対象者とした防災・減災研修＋交流会[2/23] ⑨ アドバイザーを交えた運営会議[10/27, 3/7] ⑩ 今後の方向性に係るサポーター／コーディネーターミーティング[随時]			
	事業の対象期間 令和5年 月～令和6年3月			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	山本健太	国際交流協会／（一社）トナリノ	会員／ダイレクター	全体監理
	梅津 径	国際交流協会／市役所	事務局員／主査	全体監理
	黒澤 郁江	国際交流協会／岩手銀行	会員／釜石支店勤務	教室活動監理
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	松岡洋子	岩手大学	教授・副学長	新規（1年目）
	長尾晴香	一般社団法人ViVarsity 株式会社link design lab	代表理事 代表取締役	新規（1年目）
	大泉貴広	公益財団法人宮城県国際化協会	総括マネージャー	新規（1年目）

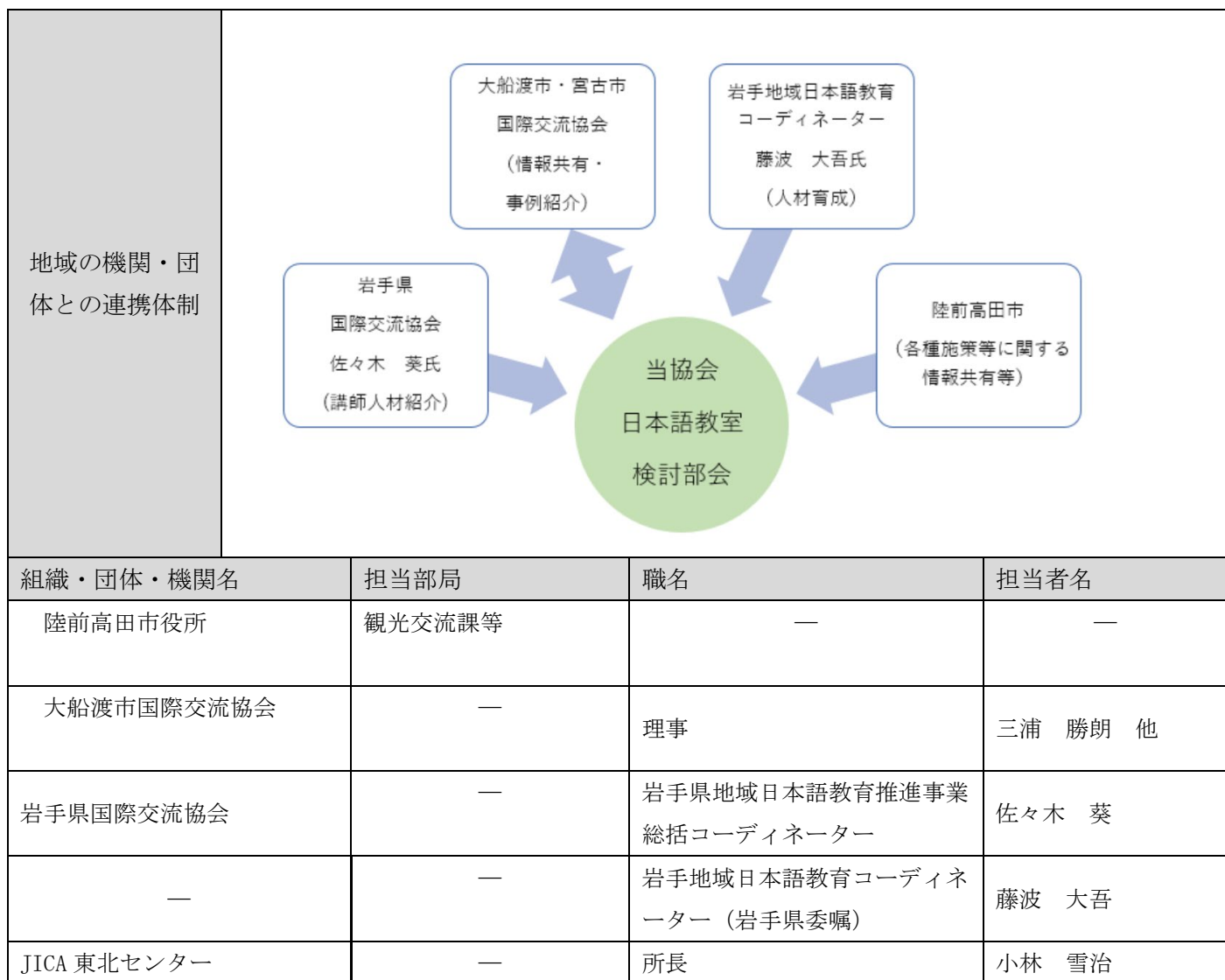
3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

（1）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制	<pre> graph TD KO[関係機関] -- 助言 --> H[国際交流協会日本語教室検討部会 ～司令塔機能、意志決定～] H -- 助言 --> AD[「アドバイザー」] AD -- 情報提供 --> CO[コーディネーター] CO -- 報告 --> H CO -- 調整 --> BO[ボランティア] BO -- 調整 --> KO CO -- 情報収集・調査 --> FR[外国人住民] CO -- 情報収集・調査 --> SI[市民] CO -- 情報収集・調査 --> EN[企業NPO等] </pre>		
	所属（担当課）	職名	担当者名

陸前高田市国際交流協会	会長	長谷川節子
陸前高田市国際交流協会	副会長	坂下睦美 大林孝典
陸前高田市国際交流協会	いずれも理事	菅原マリフェ／高清水レベッカ 村上オルテンシア
陸前高田市国際交流協会	課長／課長補佐	村上知幸／熊谷直樹
陸前高田市国際交流協会	国際交流員	ジャック・ウッドキー
JICA 東北センター	国際協力推進員（外国人材・多文化共生担当） 国内協力員（元 海外日本語教師）	佐藤智子 荒屋敷 里子

（２）日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



4. 具体的な取組内容

（１）年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和5年 4月	待機	教室開設のための調整	
令和5年 5月	旧体制での教室実施	全体監理	
令和5年 6月	旧体制での教室実施 講師・サポーターの公募 キックオフ会議・年間計画検討	旧体制教室の全体監理 公募手続き アドバイザー、事務局との調整 計画検討	オンライン会議
令和5年 7月	旧体制での教室実施 年間計画検討	旧体制教室の全体監理 アドバイザー、事務局との調整 計画検討	オンライン会議
令和5年 8月	新体制教室立ち上げ準備 県国際交流協会や県日本語教室アドバイザーとの協議	左記に係るすべての作業	オンライン会議（県協会との協議へ参加）
令和5年 9月	新体制教室立ち上げ説明会・研修会実施（3日） 教室実施（11, 20, 25日）	全体監理、説明会実施	
令和5年 10月	教室実施（4, 11, 16, 22, 23日） サポーター研修（5日） 運営会議実施（27日）	全体監理	3名来訪 事業計画について検討
令和5年 11月	教室実施（2, 6, 14, 19, 20, 28日） サポーター研修（10日）	全体監理	
令和5年 12月	教室実施（5, 10, 11, 19日） サポーター研修（4日） 県日本語教室イベントに参加（10日）	全体監理 コーディネーター情報交換会参加（19日）	
令和6年 1月	教室実施（9, 15, 22日） サポーター研修・会議（12日） 愛知日本語教室訪問（18-20日）	全体監理 教室訪問	オンライン会議 現地での調整
令和6年 2月	教室実施（5, 13, 19） 大泉アドバイザーによるサポーター向け講演会（22日） 外国人防災企画（23日）	全体監理 企画調整 イベント企画・全体監理	アドバイザー1名来訪
令和6年 3月	教室実施（4, 10, 18日） 運営会議（7日） 松岡アドバイザーによるサポーター向け講義（7日）	全体監理	オンライン会議

（2）立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称		陸前高田市国際交流協会				
外国人参加者について		9 月以降の参加者 合計 49 名 〔国籍〕カンボジア 2 7 名、ベトナム 1 0 名、アメリカ 4 名、タイ 3 名、香港 2 名、デンマーク・フィリピン・韓国各 1 名 〔属性〕技能実習・特定技能 37 名（上記カンボジア、ベトナム）、技人国（ALT 等）6 名、宗教 2 名、残りは日本人の配偶者等				
参加者数 （内 外国人数）		受講者 49 名 支援者 15 名 （サポーター登録者 12 名、コーディネーター等 3 名） 他日本人参加者 5 名（サポーター登録をせず数回参加した者）				
開催時間数		総時間 43.5 時間		内訳 1.5 時間 × 29 回		
目標		・年間通じて教室を安定して継続開催すること ・月間の参加外国人数 30 名程度（実人数） ・研修を受講したボランティア 10 名程度確保 ・日本語教室に関わる環境・課題に関する関係者の理解拡大				
	開講日時	時間数	場所	外国人参加者数	教室概要	支援者数
	〔平日教室〕 9 月 10 日から原則毎週一回（主に月曜日）平日夜 合計 24 回 （未実施 3/18 含む）	1. 5h/ 回	陸前高田市 コミュニ ティホー ル	平均 10 名超	・レベル別にテーブルに分かれて「対話」 ・原則として「にほんごこれだけ」を用いて、毎回 1 章ずつ進む形態 ・各回の最初に自己紹介等、最後に各テーブル代表者の発表を行い、教室全体のチームビルディングも図る 開会（自己紹介等） ・レベル別にテーブル	サポーター12 名 （その他参加者計 5 名） コーディネーター（デスク）3 名
	〔週末教室〕 10 月 18 日から原則毎月一回ペース。日曜日午後 に実施 合計 5 回 （未実施 3 月 10 日含む）	1. 5h/ 回	陸前高田市 コミュニ ティホー ル乃至 奇跡の一 本松ホー ル	平均 20 名弱		

【主な活動】



10 月の週末クラス。この日はカンボジア人技能実習生 14 名が初参加。サポーターが少なかったため日系米国人学習者も支援者側に。遠景に見えるように、レベル別にテーブルに分かれて対話



平日クラス。香港人、米国人の上級者テーブル。中学生もジャージ姿で参加。テキストは使いつつも自由な会話を展開。



初級者にはベテランサポーターが「にほんごこれだけ」に生教材等を組み合わせるなどで対応。



2023 年最終回。いつもと違う
「お楽しみ」活動を加えた



別会社のカンボジア人女子、
ベトナム人男子が初対面

教室の立ち上げ に係る問題とそ の対応策	● 過去の教室で講師を務められていた方々が勇退したため代わる「講師」人材が不在 →実施者側がほぼゼロからのスタートとなるためボランティアのみでできる教室の 在り方を検討。チーフアドバイザーに紹介頂き県国際交流協会に相談。県の日本語教 育コーディネーターを紹介頂き、①ベースとなるテキスト選定の実施②サポーター研 修を1度実施した上で教室をスタート。その後も毎月サポーター研修を実施した。 ⇒結果、スムーズにスタートを切ることができた。（テキスト選定を含めた上記のア プローチを行ったことに加え、集まったサポーターたちのモチベーションが高かつ たため、困難をチームワークで乗り越えることができた） ● 「旧体制」下の日本語教室参加者のうち、9月から「新教室」の立ち上げ後に参加し なくなった技能実習生もいた。これは、新教室立ち上げにあたり「対話型」の教室 を選択したことも関係していると分析している。対話型の活動をベースにしつつ、 試行的に一部参加者に対して JLPT 対策につながる個別指導を実施した。対象者の満 足度は高いものの、継続実施には課題がある。
-------------------------------------	---

(3) その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
当会主催「クリスマス交 流会」	令和5年12月3日	当協会が以前から毎年実施するイベント。今年度は日本語 教室参加者に優先的に呼びかけを行い、2社の技能実習生 が初めて会に参加した（カンボジア国籍の参加者は初）。 また、交流会の中で、日本語教室の紹介を行い、ベトナム 語での「ジングルベル」を披露するなどした。
当会主催「美味しく知 ろう！タイ&ミャンマ ー～食事&トークの会 ～」	令和5年12月20 日	在住外国人（今回はタイ人、ミャンマー人）を「講師」とし て招き、出身国のことや当市での暮らし等について日本人 向けに話をして頂く、当市初の企画。40人超の日本人参加 者に対して、日本語教室を含む当協会の活動についても周 知。地元紙でも取り上げられ、当地の在住外国人の存在に ついての認知が進んだと考えられる。教室の日本人サポー ター多数及び香港人2名等が参加。 なお、このイベントの準備過程でタイ人講師（自営業、永 住者、市在住10年強）の生活における日本語の課題を知る。 また、このイベントを契機にタイ人1名（ゼロ初級）が日 本語教室に通い始めることとなった。
「外国人との防災を通じ た交流会」	令和6年2月23日 13時～16時半（3 時間半）	在住外国人に防災・減災に関する知識を伝えて防災に係る 意識を高めるとともに、在住日本人と外国人が「防災」を 通じて交流をすることにより、同じ地域の構成員としての 意識を醸成しようとするもの。 第一部：講演会（@市民文化会館） 在住外国人による震 災体験談＋大泉貴広アドバイザーによる防災・減災研修 第二部：交流を兼ねた避難訓練（市外地で買い物等をして いる際に地震が発生したという想定で、指定避難場所へ移 動）

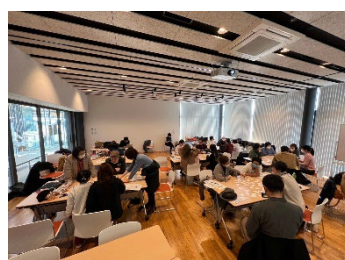
【主な活動】



クリスマス会



タイ・ミャンマー企画



防災イベント

5. 今年度事業全体について

進捗状況	教室活動については想定を上回るペースで実施しており、これまでのところ順調に進捗していると評価できる。年末年始を除けば週一回を超えるペースで教室を開催。外国人・日本人ともに多くの参加者を得ており、とりわけ外国人については、設定した目標人数を大きく上回った。（但し、その参加者の半数以上が1社の技能実習生であることには留意が必要） 一方、ニーズ調査については十分な実施ができず次年度に持ち越す。安定した参加者の確保、更に当教室が目指す「多文化共生の拠点」化を実現するためには、ニーズ調査が重要だと認識している。
事業推進にあたり問題点と対応策	・サポーターの多忙化：関係者一同活動を進める中で、「燃え尽き防止」のための減速が必要と考えられた→当初週一回平日夜の開催に加えて月一回日曜日にも実施していたが、日曜日開催の週は平日開催を見送るなど、若干の休みを置くようにした。 ・コーディネーター多忙化：当初コーディネーター2名体制でスタートしたが、提案書提出の段階と比較して多忙化したこと、想定を超えるスタートとなり教室立ち上げに係る対応に追われたことで、ニーズ調査等の取り組みが困難になった→コーディネーターを増やしたり、事務作業員を配置したりするなどして作業分担を進める方向で取り組んでいる。
成果	・多くの参加者（外国人・日本人とも）の獲得 ・定期的に通う外国人学習者の日本語能力向上 ・日本人「サポーター」の成長（「担い手」化） ・対外発信の改善（FBの立ち上げ。不十分なりに対外的な「見える化」を進めている） https://00m.in/Ycxzt ・一部企業からの理解増進
地域の関係者との連携による効果	・技能実習生等を雇用する会社3社を訪問。うち1社（ボンマックスアパレル社）は毎回実習生5名を教室に送迎。この5名はほぼ毎回参加しており、教室側としても、安定した教室活動を実施する上で彼らの存在は非常に貴重なものになっている。同社については、優良企業として地元紙等で取り上げてもらえるような働きかけを検討している。 ・市観光交流課が実施する事業で、県立高田高校生をシンガポールに派遣する事業があった。その経験者に対して当教室の活動を紹介。2年生1名がサポーターとして登録。今後も海外派遣事業や国際理解教育の関係で、観光交流課と高田高校の連携は予定されており、日本語教室の紹介も折に触れ続けていく。

コーディネーターの 主な活動	① ニーズの調査(60H) (*「H=人*時」とする。以下同様) ② 体制整備のための調整(120H) ③ 人材育成のための調整(90H) ④ 日本語教室開設及び運営のための調整(240H) (サポーター募集、登録。日程調整、会場確保。都度の出欠確認、教室のデザイン・ファシリテーション、名簿管理、サポーターや学習者との個別コミュニケーション・動機付け、企業との調整、FB掲載、アドバイザーや研修講師・事務局との調整、等) ⑤ 今後の計画策定、諸課題に関する対応策の検討(100H) ⑥ 他
アドバイザーの 主な助言	コーディネーターへの過負荷問題については、できるだけ業務を切り出し複数名で分担していくこと 学習者の要望に無理して全て対応しようとする必要はなく、教室のポリシーを保って活動することが重要。(欲張りすぎない方がよい)
今後の課題	・教室活動のサステナビリティ確保のため、参加者の新規獲得⇔ニーズ調査 ・実施体制の改編 (<u>より多くの担い手が協力してマネジメントする</u>)
今後の予定	・ニーズ調査(技能実習生のみならず、居住歴が長い永住者等についても) ・次年度の実施体制―役割分担の明確化 ・新規サポーター募集～コアサポーターと、気軽に参加できる者を共存させる枠組みを検討 ・サポーター研修継続。新規参加者とベテラン向けに別メニューを。 ・「発信」強化 ・地域とのつながり拡大、近隣市町との連携強化等 ・市内企業向け「外国人材セミナー」開催

本件担当： 陸前高田市役所観光交流課定住交流係